

バッファー管理口座からのクレジット無効化について

平成 29 年 3 月 9 日

オフセット・クレジット (J-VER) 制度管理者 (環境省)

オフセット・クレジット (J-VER) 制度事務局

平成 29 年 3 月 6 日、オフセット・クレジット (J-VER) 制度管理者及び制度事務局では、オフセット・クレジット (J-VER) 制度実施規則「⑧-2 吸収プロジェクトに係る特別措置」の別紙で定める所要の措置*1 に定める、自然撓乱、収用などの避けがたい土地転用への対処として、以下のとおり CO₂ 吸収効果消失量に相当するクレジット量についてバッファー管理口座から無効化口座への移転を行った。

※ CO₂ 吸収効果消失量の計算方法及び内訳は別紙を参照

1. 無効化量 (CO₂ 吸収効果消失量に相当するクレジット量)
472 t-CO₂
2. 無効化日
平成 29 年 3 月 6 日 (月)
3. 無効化完了後のバッファー管理口座残高
14,258 t-CO₂

<注釈>

*1 オフセット・クレジット (J-VER) 制度では、森林管理プロジェクト対象地において生じうる、自然撓乱、収用などの避けがたい土地転用への対処として、オフセット・クレジット (J-VER) 制度実施規則「⑧-2 吸収プロジェクトに係る特別措置」の別紙で定める所要の措置において、制度事務局はバッファー管理口座を保有し森林管理プロジェクトにより発行されるクレジットから補填用クレジットの確保すること及びプロジェクト対象地における自然撓乱の発生や避けがたい土地転用が発生した場合に CO₂ 吸収効果消失量分をバッファー管理口座から無効化口座に移転することを定めている。

<CO₂吸収効果消失量の計算方法>

$$\text{CO}_2\text{吸収効果消失量} = \text{自然撓乱によるCO}_2\text{吸収効果消失量} \\ + \text{避けがたい土地転用によるCO}_2\text{吸収効果消失量}$$

<CO₂吸収効果消失量の内訳>

◆ 自然撓乱によるCO₂吸収効果消失量（統計データを用いた吸収効果消失分：平成26年度分）

「林野関係被害の発生状況」の統計等に基づき、第26回オフセット・クレジット（J-VER）制度運営委員会の審議にて定められた計算方法に従い以下のとおり計算を行った。

平成26年度分CO₂吸収効果消失量（統計データ算出量）

総森林面積 ^{※1} ：	25,081,000ha	（内、民有林面積 ^{※1} ：17,407,000ha）
気象災害面積 ^{※2} ：	4,831ha	
林野火災面積 ^{※3} ：	1,062ha	
野生動物による森林被害面積 ^{※4} ：	8,800ha	

（出典：平成27年度 森林・林業白書）

平成26年度までに吸収プロジェクトより創出されたクレジット量合計：519,630 t-CO₂

<計算式>

$$\left[\frac{\text{気象災害面積}}{\text{民有林面積}} + \frac{\text{林野火災面積} + \text{野生動物による森林被害面積}}{\text{総森林面積}} \right] \\ \times \text{平成26年度までに吸収プロジェクトより創出されたクレジット量合計}$$

$$\left[\frac{4,831}{17,407,000} + \frac{1,062 + 8,800}{25,081,000} \right] \times 519,630 = 348.53 \Rightarrow 349 \text{ t-CO}_2$$

※1 総森林面積及び民有林面積は平成24（2012）年3月31日現在の数値

※2 気象災害面積は、民有林の被害である（平成26年のデータ）

※3 林野火災は民有林、国有林（林野庁所管外も含む。）の被害である（平成26年のデータ）

※4 野生動物による森林被害は民有林、国有林（林野庁所管）の被害である（平成26年度のデータ）

◆ 自然撓乱によるCO₂吸収効果消失量②（個別に報告された自然撓乱分：平成27年度分）

制度事務局に報告された、プロジェクト対象地における自然撓乱によるCO₂吸収効果消失量（平成27年度分）は以下のとおり。

個別に報告された自然撓乱に伴うCO₂吸収効果消失量（平成27年度分）

被害面積合計：	10.13ha
CO ₂ 吸収効果消失量：	122.69 t-CO ₂ ⇒ 123 t-CO ₂

（プロジェクト事業者からの報告値）

◆ 避けがたい土地転用によるCO₂吸収効果消失量（平成27年度分）

制度事務局への平成27年度における当該事象の発生報告なし。